

週日の説教

金 大烈 神父 2010年10月21日(木)

《神様の基準に従いましょう - 分裂があっても、失敗があっても -》

今日の福音に入る前に、もう一度第一朗読(エフェソ 3・14 21)を読んで、その意味を確かめましょう。

「あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。」

使徒パウロは天才です。逃げるばかりの生き方をしながら、このように2000年経っても変わらないくらい完璧な聖霊による神学を話しています。皆様、「キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さ」について、考えたことがありますか。使徒パウロの最期は、首を切られ、壮絶な殉教の死でしたが、このような信念があったから、殉教の刀も怖くなかったのでしょうか。彼の神学は100パーセント信仰から出るものだったことを感じます。

さあ、今日の福音(ルカ 12・49 35)入ってみましょう。今日の福音は、これを読んだ人がどのように解釈すればよいのか迷っているのをよく見かけます。さあ皆様、どのように理解すればよいのでしょうか。“イエス様は平和をもたらすために来られたのではなくて、分裂を起こすために来られた”と書いてあります。どういう意味でしょうか。「信仰のためにいろいろな分裂が起こるのだろう」くらいのことはすぐに思いつくでしょう。しかし、この福音の中には私たちがよく考えなければならないもっと大事で基本的なメッセージが隠れています。それは、基準の問題です。神様の基準に従うのか、この世の基準に従うのかによって、私たちの人生が100パーセント変わることを示しているのです。神様の基準に従おうとすれば、いろいろぶつかりますよね。まず、自分の良心とぶつかります。心の中で、“これをするべきか、やめるべきか”二つの勢力が戦います。いろいろな迷いが生じます。家族の中でも同じです。友達の間でも、職場でも、この教会の共同体の中でも同じです。しかし、それでも私たちが従うのは、神様の基準でなければならないことを今日の福音を通してもう一回確認しましょう。

さあ、基準について話します。“一生懸命に祈っているのに、なぜ神様は私の祈りを聞いてくださらないのか”、“こんなに祈っているのになぜ問題を解決してくださらないのか”そういう悲しみをを感じる人も結構いるでしょう。皆様の中にもそういう経験があると思います。しかし、聞いてくださらない時にはまず、“その祈りが神様の基準に合わないのだ”と考えてください。私たちが間違えた道を行って行く祈りならば、いくら祈っても神様は絶対に聞いてはくさいません。それが悪い結果になると分かっているからです。聖書の中に「魚を欲しがる子どもに、魚の代わりに蛇を与える父親がいるだろうか。」(ルカ 11・11)とあるのと同じです。もし、“こんなに強く願っているのになぜ聞いてくだ

さらないのか”と思うとしたら、それはそのとおりにしたら破滅の道を歩んでしまうことを神様が誰よりもよく分かっているから、そのようにしてくださらないのでしょうか。

では逆に、欲に従うよくない方法で成功した場合には、どのように考えればよいのでしょうか。常識で考えて正しくない、正義にはずれている方法で、何か褒美が手に入ったとしましょう。それは、神様の恵みでいただいたと解釈すればよいのでしょうか。いいえ、それは悪魔の仕業です。悪魔は、人々が神様の御手からできるだけ離れるように富を見せて誘惑するのです。間違えた方法でも成功したように見えるのは、悪魔が罪を犯すように導いているからだと思います。

皆様、人間の社会の基準で失敗したように見えても、もし皆様がその結果のために選んだのが神様の基準ならば、幸せだと思ってください。永遠の命に至る道を選んだと信じてください。こういうことに迷い始めたら、私たちは信仰的に、霊的に、絶対進むことができません。

皆様、今日の福音をもう一回考えてみましょう。自分が従ってきたのは神様の基準なのか、それとも人間的な社会的な欲望の基準なのか、振り返ってみましょう。そして、神様の基準に従って来たと言えるならば、満足してください。

ありがとうございました。